

○研究の背景・動機

以降、「福高」に附属中を含む

- 日本での地震の頻度
- 福高の避難訓練のあり方に疑問を持った



福高の避難訓練をより効果的に
実践力を高めるものにする

※ここでは実践力を「危機に直面した際に、身の安全を確保出来る能力」と定義する

○活動内容

- 中丹府立学校へのアンケート
- 福高の教職員、生徒へのアンケート
- 地域防災連続セミナーへの参加

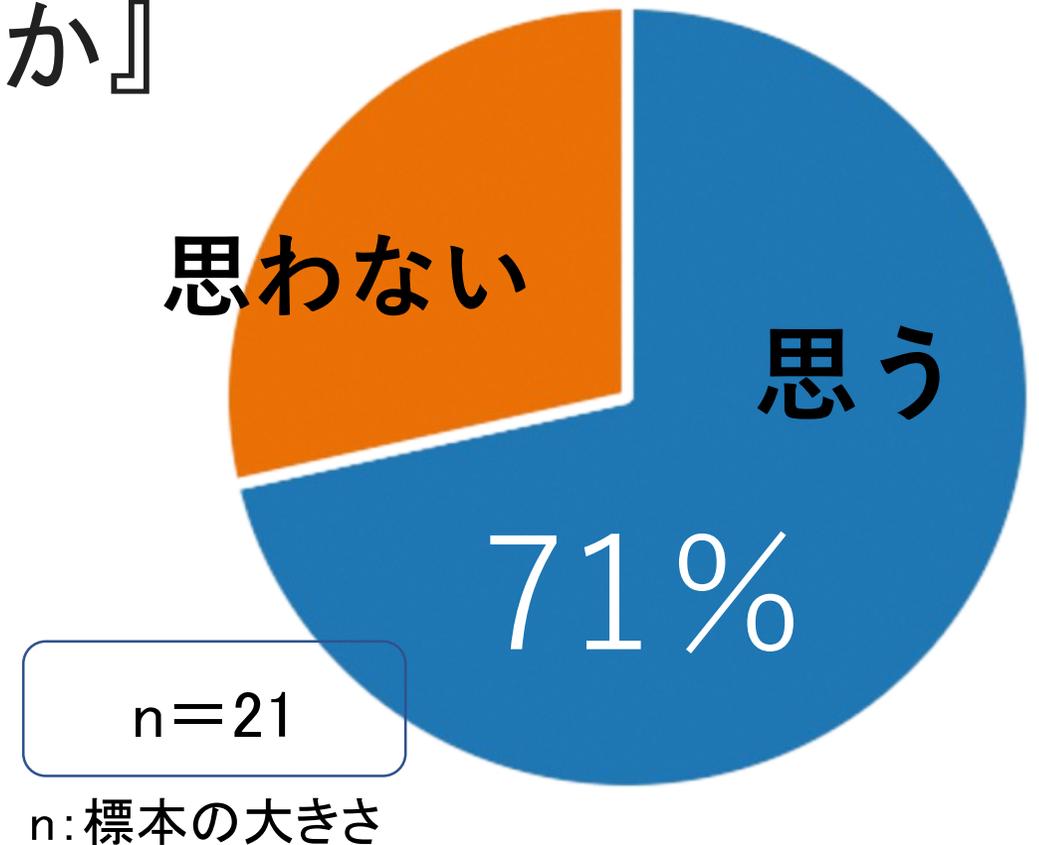
○研究内容

- 調査（防災訓練の現状）
- 参考となる実践のまとめ
- アンケート（教員・生徒向け）の実施
- 改善点のまとめ

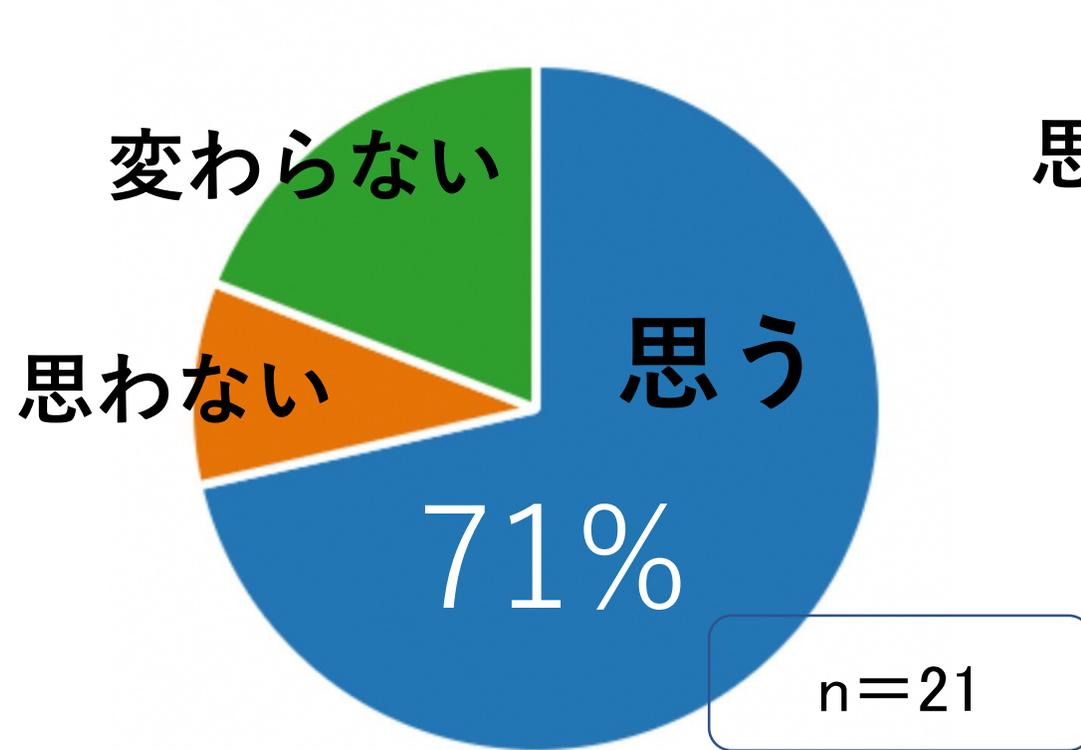
○研究結果

『福高の避難訓練方法には改善すべき
問題点があると思いますか』

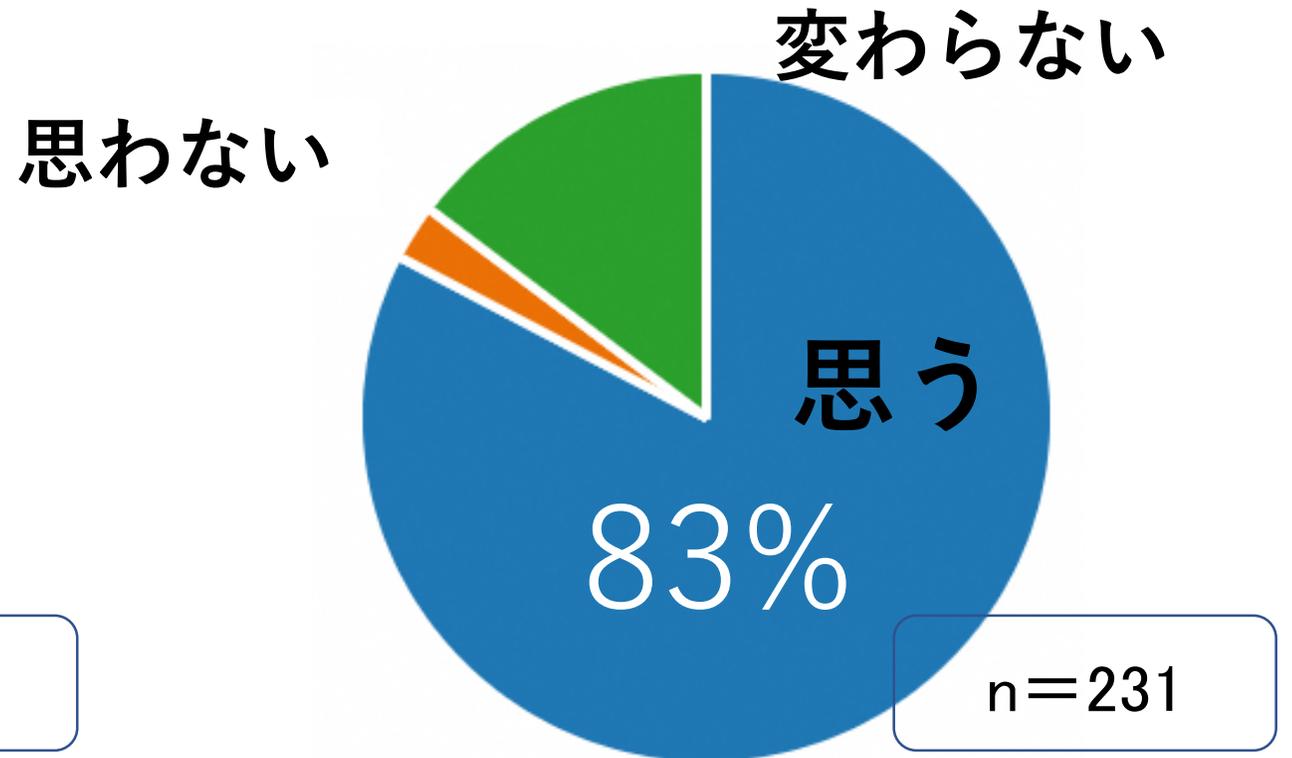
□福高の教職員に対する
アンケート



『事前通知のない抜き打ちでの避難訓練は通常の避難訓練と比べて効果的だったと思いますか』



□福高の教職員に対するアンケート



□福高の生徒に対するアンケート

『通常の避難訓練と比べてどのような点が悪かった、もしくは悪かったと思いますか』

《良かった点》

- 緊張感があった
- 冷静に物事を判断できた
- 実際の地震をイメージできた
- 心の準備が出来ていなかった
ので、冷静さに欠けた状態で訓練
ができた
- HR教室以外から避難したので、
新しい経験ができた

《悪かった点》

- 期間が指定されていたので、心
構えができていていつもとあまり
変わらなかった
- ベルが鳴った瞬間に、放送を聞
かずにみんなで机の下にもぐっ
てしまった
- 先生が事前にうろうろしていた
ので予測できた

○結論

- 現在福高で行われている避難訓練には課題があると感じている教職員が半数以上を占めている。
- 教職員、生徒共に事前通知のない避難訓練は、通常の避難訓練と比べて効果的だったと感じている。

○考察

これまでの避難訓練の課題

⇒ 緊張感を保つことが難しい

事前通知のない避難訓練

⇒ 一定の緊張感を持つことができる

さらに実践力を高めるためには

⇒ 緊張感を高める工夫が必要である。

例えば

- 実施時期を悟られない工夫
- 不測の事態（通路を塞ぐ等）の設定
- 定期的に見直す機会を持つ

○今後の展望

- ①研究結果をもとに、福高の避難訓練をより実践力を高めるものにするための「避難訓練モデルケース」を作成する
- ②実際にモデルケースを使用して避難訓練を行う

○謝辞

- 九州大学大学院人間環境学研究院
准教授 杉山高志様
- 中丹府立学校の管理職の皆様
ご協力ありがとうございました



○参考文献

- 国吉恵一，藤原靖浩(2019)。「防災教育における教員の指導に関する一考察：高等学校での「抜き打ち避難訓練」の効果と学校安全」『京都産業大学論集 人文科学系列』，52，103-124.
- 東京都教育委員会(2015)。「避難訓練の手引」。
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/safety/files/evacuation_drill_handbook/hinankunren.pdf, (2023.11.21).

ご清聴

ありがとう

ございました